

水耕栽培によるバラの高品質・省力生産の試行

状況

島根県 益田市 国営開発地高津工区地区

地区概要: 農地面積33.20ha(うち耕作放棄地2.70ha)
 荒廃の理由: 農業者の高齢化、労働力不足、後継者不在
 荒廃の程度: 雑草繁茂、樹木侵入。農業機械・重機による作業が必要
 全体調査の区分: 黄



再生作業前









取組概要

対象面積: 18a(畑)
 実施期間: 再生作業:平成21年11月19日～平成21年11月27日
 栽培実証:平成22年3月9日～(1年間を目処に)
 取組のきっかけ: 既存のパイプハウスではバラの周年栽培は困難なため、鉄骨ハウスを新設し通年積極生産できる体制を整えたいと考え、予めより市に相談を行っていた。本対策事業の説明を受け、その候補地として現在営農を行っているバラ温室に隣接している耕作放棄地を活用することで、栽培環境に悪影響を及ぼしている病害虫や日照の妨げの解消になることや作業上都合がよいことからこれを再生し活用することとなった。
 調整経緯: 取組主体が直接地権者に協力を求め貸付の了承を得た。
 取組主体: 益田市耕作放棄地対策協議会 (栽培は農家)
 取組作物: バラ(水耕)
 作業内容: 雑草・樹木の刈払、障害物除去、整地、鉄骨ハウス・水耕設備設置、定植
 実証状況: 3月上旬から4月上旬定植(14種類6,500本)。6月中旬から7月中旬に1回目の収穫。8月中旬から2回目の収穫。5名(内アルバイト2名)で管理。
 出荷先: 花満(広島)、JAアグリ島根(斐川)、益田青果(益田)

今後の予定

高品質のバラの周年栽培が可能となったことから、有利販売を行っていききたい。地域のバラ生産では本システムは新規の導入となるため、同業者等への情報提供等を行っていききたい。

再生状況

			
老朽ハウス基礎撤去	鉄骨ハウス建設中	ハウス外観	実証ほの看板
			
整地	ハウス内装	水耕設備	バラ栽培中
再生作業中		現状	

問い合わせ先: 益田市耕作放棄地対策協議会 0856-31-0316(益田市農林水産課)

異なる栽培管理によるわさびの生育比較

状況

島根県 益田市 柏原地区

地区概要: 農地面積4.36ha(うち耕作放棄地4.36ha)
 荒廃の理由: 養蚕用の桑生産地だったが、需要が無くなり放置された
 荒廃の程度: 雑草繁茂、樹木侵入。農業機械・重機による作業が必要
 全体調査の区分: 黄



再生作業前









取組概要

対象面積: 65a(畑)
 実施期間: 再生作業:平成21年9月25日～平成21年11月13日
 栽培実証:平成21年12月29日～平成22年6月16日(収穫終了日)
 取組のきっかけ: 市内では標高の高い匹見地区がわさびの産地だが、低地での栽培が可能となれば、新規就農者にとって安定的で将来性のある作物として普及も可能となることから、その候補地について市に相談をしていた。そこで、今回の事業の説明を受け、将来において規模拡大が可能な当地の耕作放棄地を候補地として選択し、再生することとなった。
 調整経緯: 地権者(個人1名、JA)には事業開始前に、市よりわさびの生産の計画を説明し、無償貸付が行えるか確認し事業着手した。
 取組主体: 益田市耕作放棄地対策協議会(栽培は農家)
 取組作物: わさび
 作業内容: 雑草・樹木の刈払、整地、土壌改良、定植、用排水整備、ハウス設置
 実証状況: 12月下旬～1月中旬定植。ハウスごとに施肥量等の条件を変えて栽培。5月下旬～6月中旬収穫。排水不良の場所があり、生育に影響が出た。
 出荷先: JA西いわみ

今後の予定

今回の実証により当地の土づくりが重要であることが判明したためこれを重点的に行っていく。他のわさび生産者と情報交換を密にし、収量増に取り組む。

再生状況

			
整地	ハウス完成	ハウス外観	実証ほの看板
			
ハウス建設	施肥	収穫後	排水路
再生作業中		現状	